

9月22日、24日にヤンマースタジアム長居で行われた第65回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会の招待小学生リレーに耳成南陸上クラブ（男子）とフィールドキッズ（女子）が参加しました。関西の強豪チームが揃う中、耳成南陸上クラブは2位、フィールドキッズは4位と大活躍してくれました！8月の世界選手権に出場していた多くの選手が揃う大会に出場し、走れたことはとても良い経験になったと思います。また、有名選手やメダリストにサインを貰えた人は忘れられない思い出になったことでしょう。来年も大阪で開催される予定です。この機会を逃した人はまた来年に期待いたしましょう！



各クラブのコメント

耳成南陸上クラブが全日本実業団の招待リレーに出場するのは昨年に引き続き二回目です。昨年もこの大会で勢いづいて、一気に飛躍した印象があります。今年度から私がクラブのメイン指導を引き継ぐ形となりましたが、どうもこの大会とは縁があるようです。今年度は8月の全国予選で出した54秒52がチームの最高記録でしたが、今大会で53秒17と1秒35もタイムを縮めていたことには驚かしていません。ミスがなければ最低でも53秒5は出るだろうと踏んでいました。想像を遥かに上回るタイムで走ってくれました。また、表彰台を目指すには、最低でも52秒台は必要かなと思っていましたので、2位に入れたことも驚きでした。普段の練習から、リレーに関してはほとんど褒めることがないのですが、さすがに褒めましたね（笑）。というのも、今大会は走順を変えた上に、2、3回のバトン合わせしか行わずに臨んだので、無事にバトンが最後まで渡るかどうか不安だったくらいです。その中でこれだけの結果を残したので、「やるなあ」と素直に思いました。

これまでの耳成南と比較して、今のリレーチームが優れていると思うのは、圧倒的にミスが少ないという点です。今年度は既に10レース程走っていますが、バトンを落としたり、大きく減速したり、失格になったレースは一つもありません。春先に比べてバトン練習を行う回数も減っているくらいですが、どんどん上手くなっています。耳成南をみるようになって四回程経ちますが、こんな年はありませんでした。これまでもリレーメンバーに入る子供達は真面目な子が多く、「他の子供達と比べてここが違う」とはつきり言える点は特にないのですが、何となく、チームとしてうまくいことバランスが取れているのかなという気はします。昨年のチームはこの大会で54秒0台を出して、3月の少年少女陸上競技大会で51秒3台の耳成南記録をマークしました。今年のチームはここまでいけるのでしょうか。まだまだ大会は残っていますし、この良い状態がいつまで続くのかわかりませんが、私自身楽しみにしていますし、皆さんも楽しみにしています。どこかで失敗もするだろうと思いますが、それも経験として活かされますから、これまでと変わらずに練習してほしいと思いますし、私自身も今まで通り指導していきたいと思っています。（西川 談）



フィールドキッズは女子のリレーで初めて全日本実業団対抗選手権大会に出場しました。小学生のリレーは午後から競技開始だったので、午前中に小学生対象の陸上教室が開催されるということと、陸上教室ではオリンピックメダリストに指導をしていただきました。またいつもとは違う刺激があったのでいいかなと思います。その後、午前中は世界で活躍する選手の走りを観戦し、早めに昼食を食べて午後のリレーに備えました。

今大会の小学生リレーはタイムレース決勝になっており、女子のリレーは21チームが3つの組に分かれてそれぞれレースを行い、タイムで順位を競うという形式でした。フィールドキッズは1組目に入り、1走と2走は全国大会と同じ走順で、今回も安定したバトンパスで先頭争いをしながら3走までいきましたが、ここでパスのタイミングが少しずれ、やや減速してしまいました。リレーゾーンギリギリでバトンが渡ったため、減速してしまいました。とっさの判断でスピードを落とし、失格を回避してバトンを繋ぐことができました。その後、失格を回避してバトンを繋ぐことができた。最終的に1着でゴールを駆け抜けました。残りの2組、3組の結果、総合4位という成績でした。バトンパスで少しミスがあったにもかかわらず、4位という成績を残すことができたのは、それぞれのメンバーの走力がアップしている証拠だと思います。ミスがなければもう少し上位に入れたかもしれないという状況でしたので、本人達はとても悔しい思いをしたと思います。実業団のリレーでも同じようなミスをしているチームがありました。たくさん経験を積んでいる大人でもリレーはミスが起きます。それがリレーという種目です。リレーはみんな力で合わせて走り出すので、目標を達成したときには仲間であつたことを分かち合えることができます。そして、ミスをしたときには仲間であつたことを分かち合えることができます。また前に進むこともできる種目だと思っています。今回の結果がみんなを成長させるにつなげてくれることを信じています。（丹羽 敦談）



今回の結果がみんなを成長させるにつなげてくれることを信じています。（丹羽 敦談）